

2018年度生活支援センターつくも事業報告

2018年度運営目標に掲げた、個別のニーズに沿った支援の徹底、緊急への対応は、支援センターつくもの根幹をなすものであり、利用予約の受け方、緊急事態への配慮という点ではできるだけ対応をしてきた。又、短期入所、日中一時支援の利用の増大等により予約の受け方を変えたり、日中一時支援の送迎について、送迎がどうしてもできない事情等に限る等の対応も余儀なくされた。

施設整備については、地主側との交渉がようやくまとまり、次年度以降、地域のニーズに即し、少なくとも、今後10年間の障害福祉ニーズも展望して具体的なプラン作成を行っていく。

1. 事業活動重点事項の成果及び課題

①相談支援事業（計画相談・障害児相談・市町村相談支援機能強化事業）

149ケースと契約しており、モニタリングの回数が増えたことによる影響が徐々にではあるがでてきている。新規の相談依頼もあるが、ほぼ受けられない状態が続いており、また多数の問題を抱えているケースが多い事もあり相談支援体制の強化は急務である。

計画相談・障害児相談合計

計画相談	モニタリング
125	317
+31	+35

②居宅介護・重度訪問介護・移動支援

2018年度も利用件数が増え続けている。ヘルパーの体制の強化は、現職のヘルパーを育成することで、質量とも意識的に取り組んでおり、徐々に成果となってきた。障害福祉専門の居宅介護事業所として医療的ケアの必要なケースへの対応等が求められた。今後の研修等力量のアップ、質の向上を図っていく。

居宅介護

利用人数	利用件数	利用時間
179	1793	3105.5
+42	+218	+642.5

移動支援

利用人数	利用件数	利用時間
186	590	2117.5
+54	+134	375.5

③放課後デイサービス

今年度より導入された重度の障害のある児童を受けている割合で単価を決める仕組みは、放課後デイサービス事業に大きな影響を与え、なかには廃業する事業所もあらわれた。生活支援センターつくもは、何とか基準をクリアし、職員配置体制は確保できたが、今後との見通しは不透明である。それは評価自体、非常に不確定要素が大きいからであり、市町村との情報交換が大切となる。また、利用児童の獲得は苦慮しており、内容の質を高めアピールしてゆく必要がある。

利用者数	利用件数	一日平均利用者
360人	2501	8.95
+5	+117	+0.10

④日中一時支援事業

成人の休日支援という要素がととも強く、利用者もレギュラー化してきている。強いニーズであるので今後対応や方向性模索する。

利用人数	利用件数	利用日数
328	1,053	522.32
+43	+111	+94.32

⑤短期入所事業

緊急時対応、レスパイト、体験とニーズは様々だが年々増加の一途をたどっている。日常的に定員4名が埋まりつつある。具体的には、保護者の急病等での利用があり、長期にわたっているケースや、保護者の高齢化等により保護体制の弱くなった方の定期利用も増えつつある。さらにはグループホームに向けた体験的な利用、将来に備えた体験等の問い合わせも増えている。今後これらのニーズをどう受け止めてゆくか、また、施設整備の重要な検討課題にもなってくる。

利用者数	延べ利用日数
449人	1797
+48人	+128

2. 運営について

- *職員体制は、各事業を超えて一体となった運営を行ってきた。そうした良さもあるが、日常的に違う現場で稼働していることもあって相互の理解が困難な場合もあった。
- *利用者のニーズに合わせることや多様な事業を行っていることで早番対応や遅番対応が日常化しどうしても不規則な勤務になってしまう。
- *相互理解が大切なのでケース検討を中心に研修を行ってきた。また虐待防止に関する研修も2回行うなど、意識の向上に努めてきた。